

総合職試験等からの 新規採用職員に対するアンケート

結果の概要

調査対象者 令和5年度初任行政研修を受講した職員 764人
有効回答数 699人(回収率 91.5%)

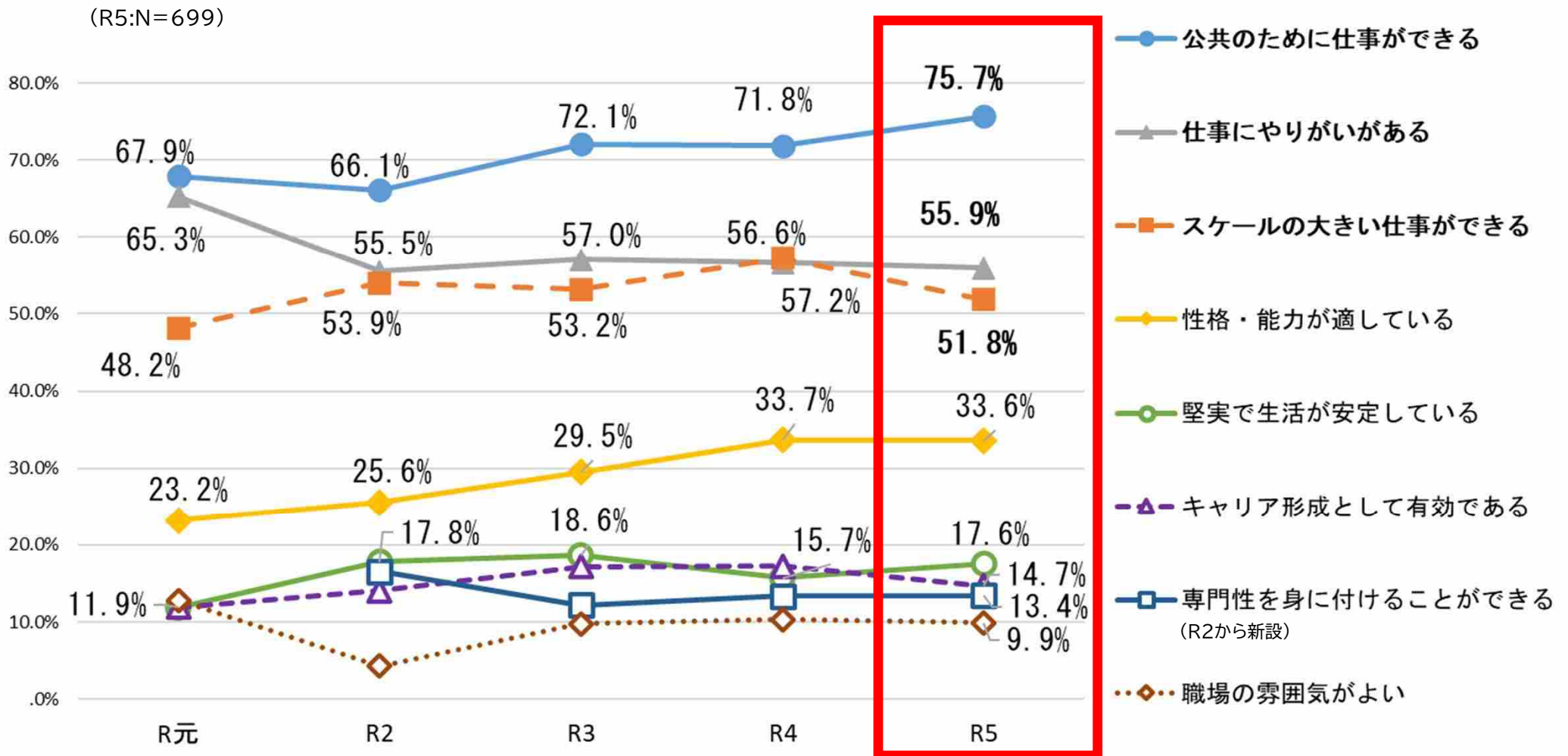
※ 各問のグラフ中の「N」は、それぞれの問に対する令和5年度の有効回答数

〔用語の説明〕

- ・「総合職試験等」とは、国家公務員採用総合職試験及び、国家公務員採用総合職試験相当の試験(例:農林水産省獣医系技術職員等を採用する試験)等をいう。
- ・「初任行政研修」とは、平成9年度に創設されたもので、人事院が、主として総合職試験に合格して新規採用された全府省の職員を対象に実施している研修である。

問1 国家公務員になろうとした主な理由(3つ選択)

➤「公共のために仕事ができる」「仕事にやりがいがある」「スケールの大きい仕事ができる」が上位3つを占める

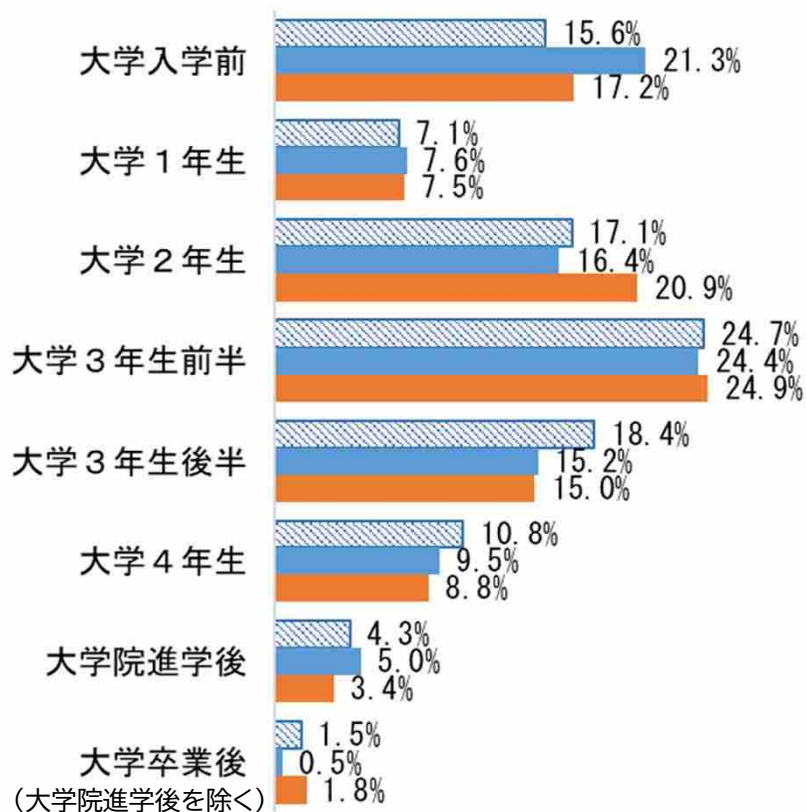


問2 就職先として国家公務員を意識した時期

- 総合職試験(大卒程度)では、45.6%の者が大学2年生までに就職先として国家公務員を意識
- 総合職試験(院卒者)では、46.0%の者が大学院進学後に意識

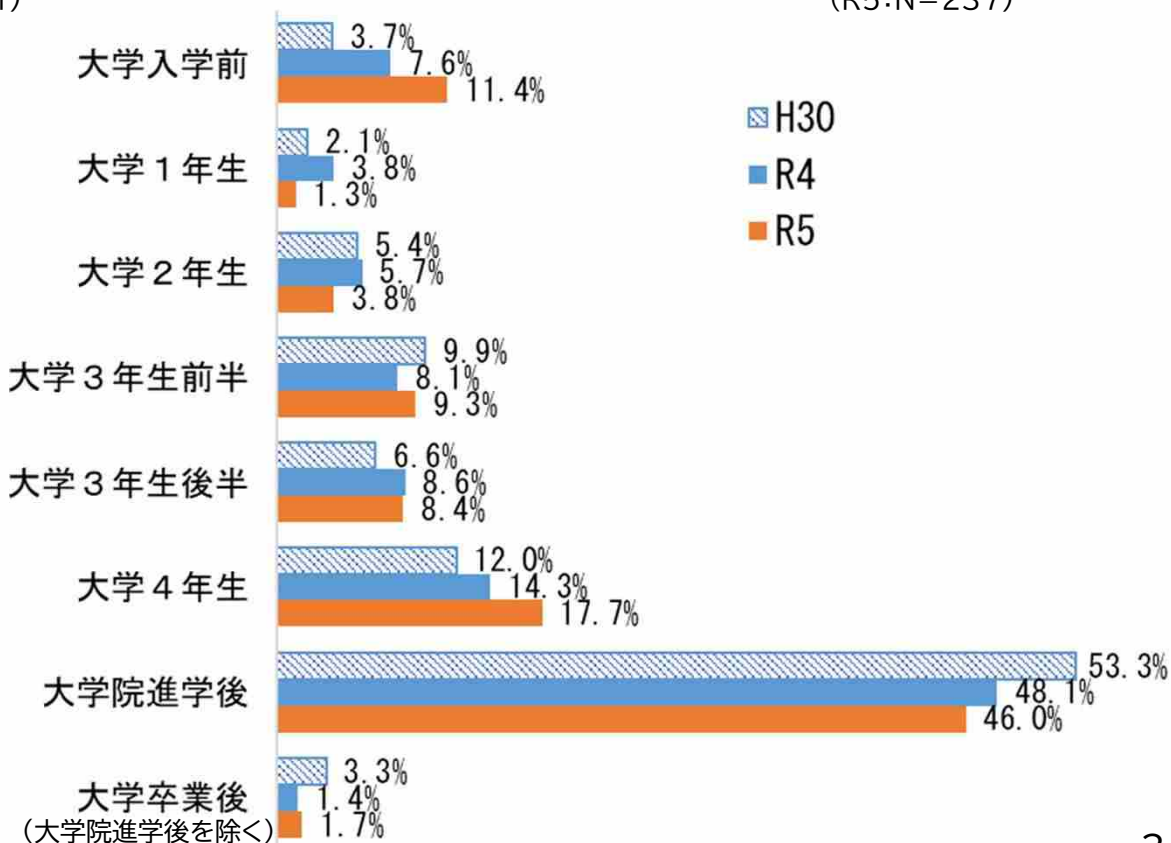
総合職試験(大卒程度)

(R5:N=441)



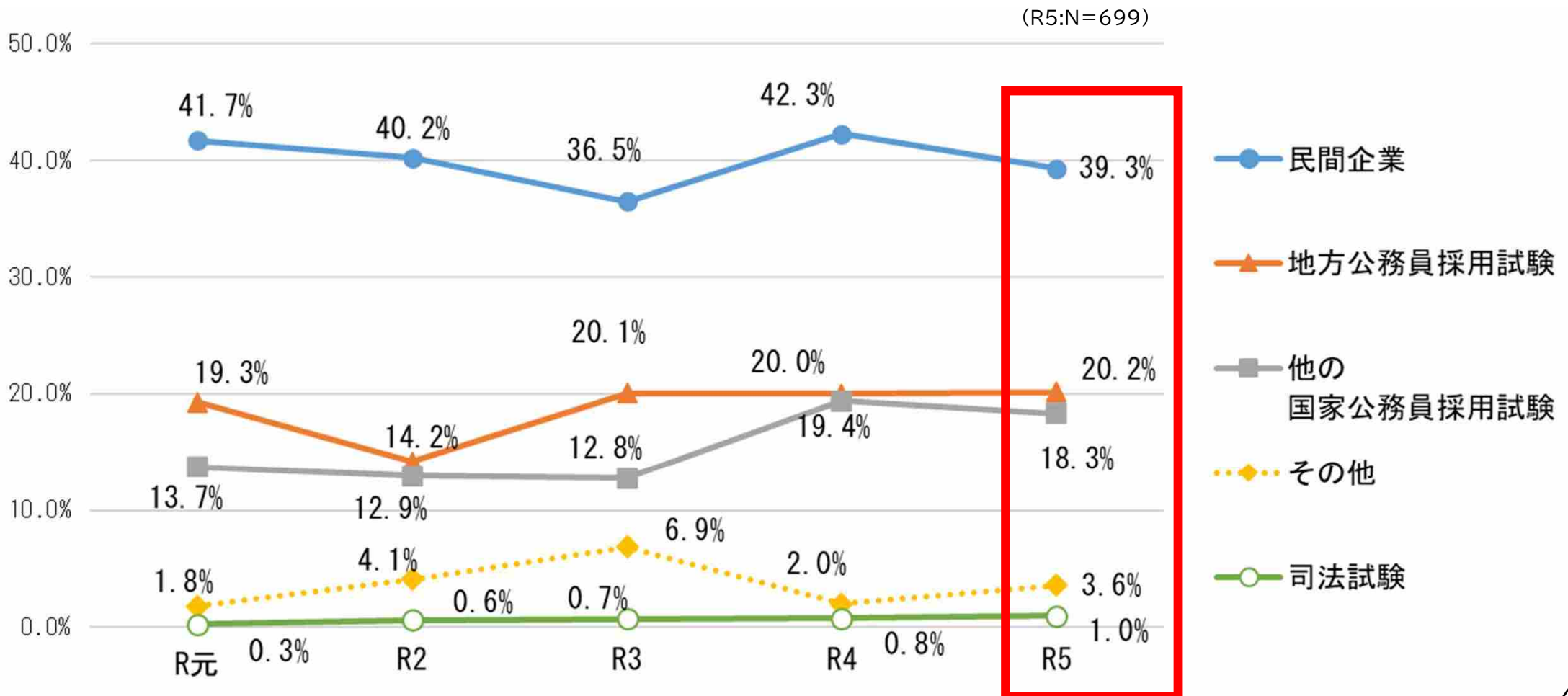
総合職試験(院卒者)

(R5:N=237)



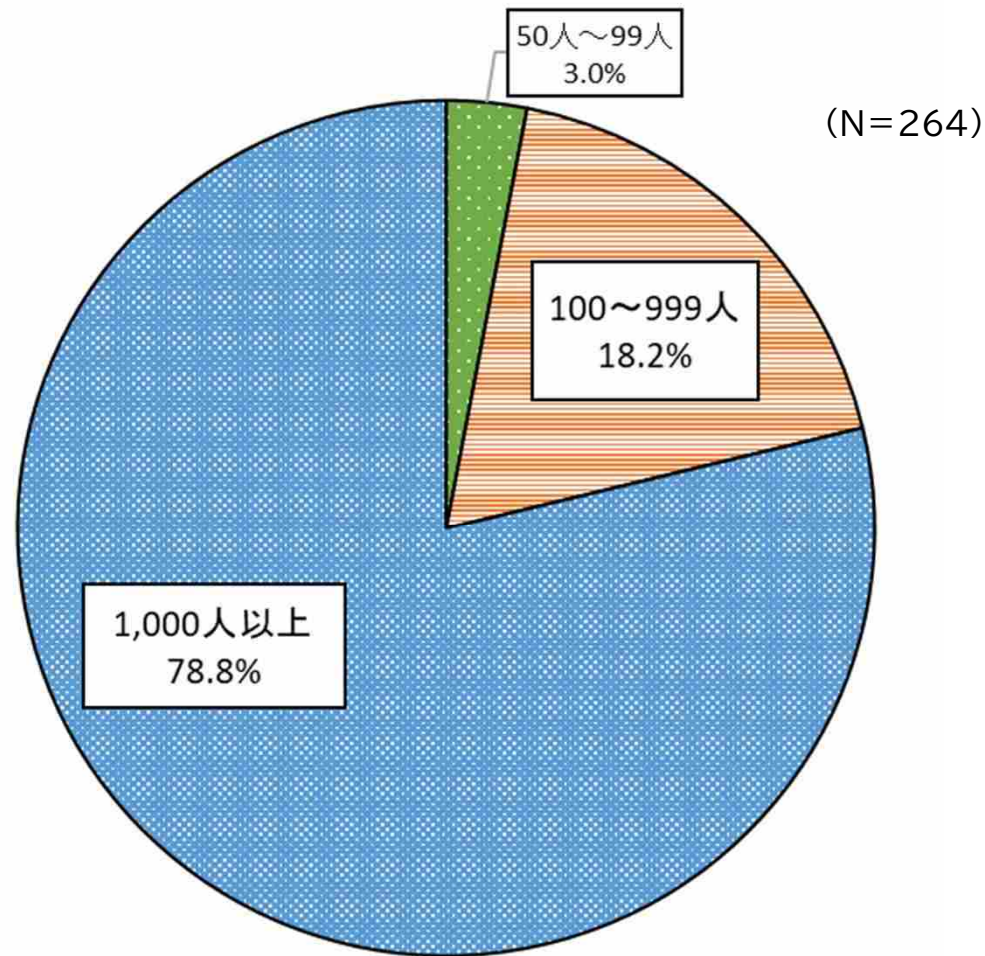
問3 採用された試験以外での合格、内定先(複数回答)

➤ 「民間企業」が39.3%、「地方公務員採用試験」が20.2%、「他の国家公務員採用試験」が18.3%であり、4割近くの者が官民を通じた就職活動を経て公務員に就職



問4 (問3で「民間企業」と回答した方) 内定を受けた民間企業の規模のうち、最も大きいもの

- 「1,000人以上」との回答が約8割
- 主な人材確保の競合先は、企業規模1,000人以上の大企業

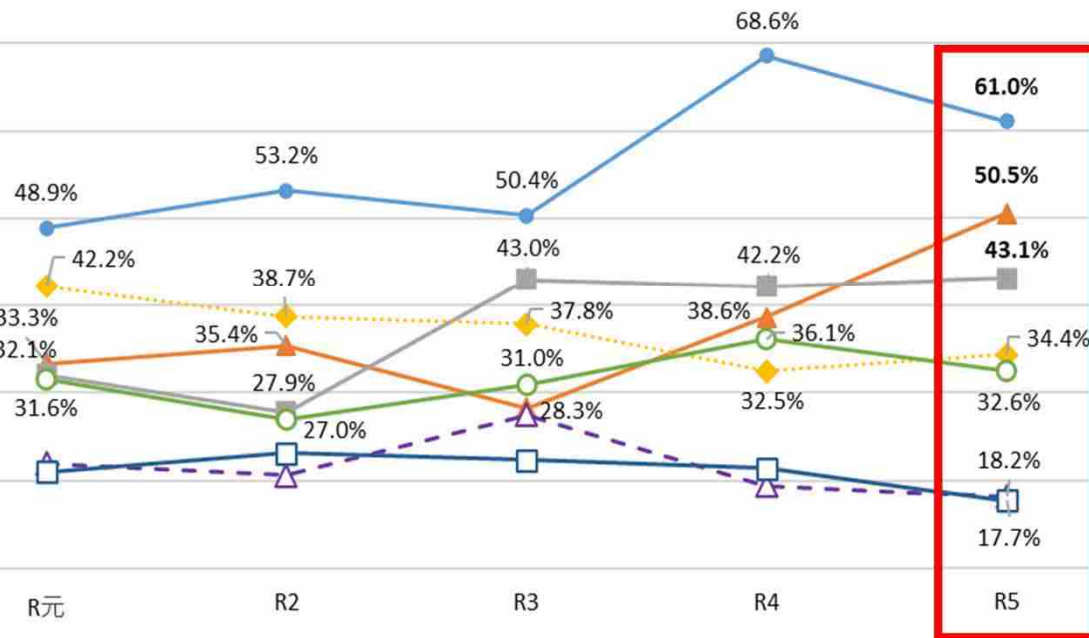


問5 周りの優秀な学生の就職先(3つ選択)

- 法文系の職員では「コンサルタント・シンクタンク」「商社」「国家公務員」が上位
- 理工系等の職員では「コンサルタント・シンクタンク」「メーカー」「進学」が上位

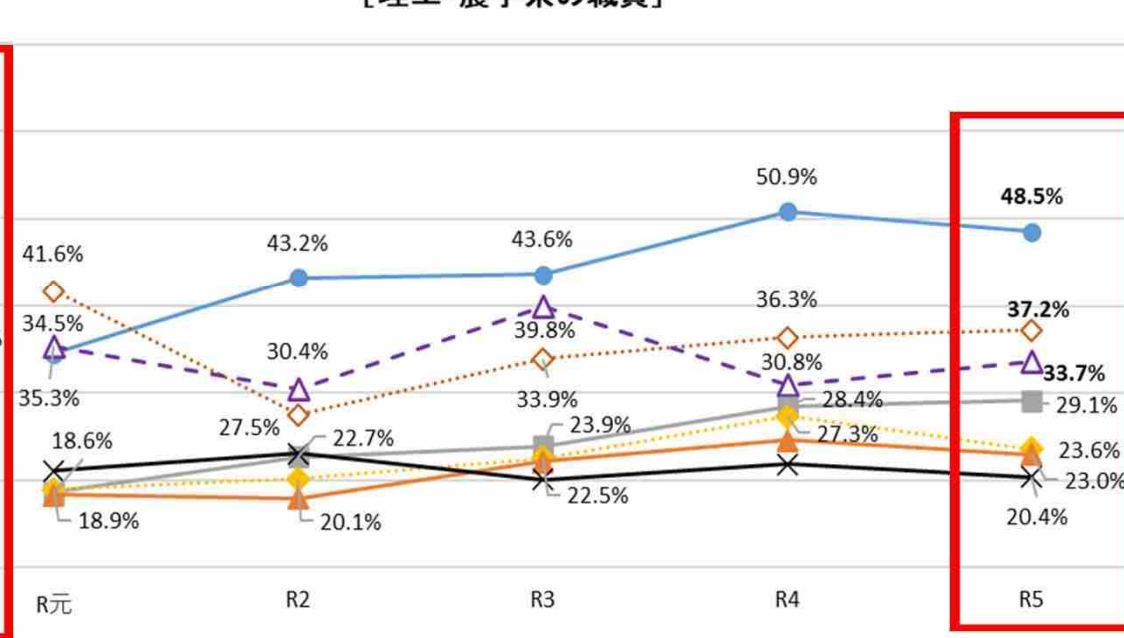
[法文系の職員]

(R5:N=390)



[理工・農学系の職員]

(R5:N=309)

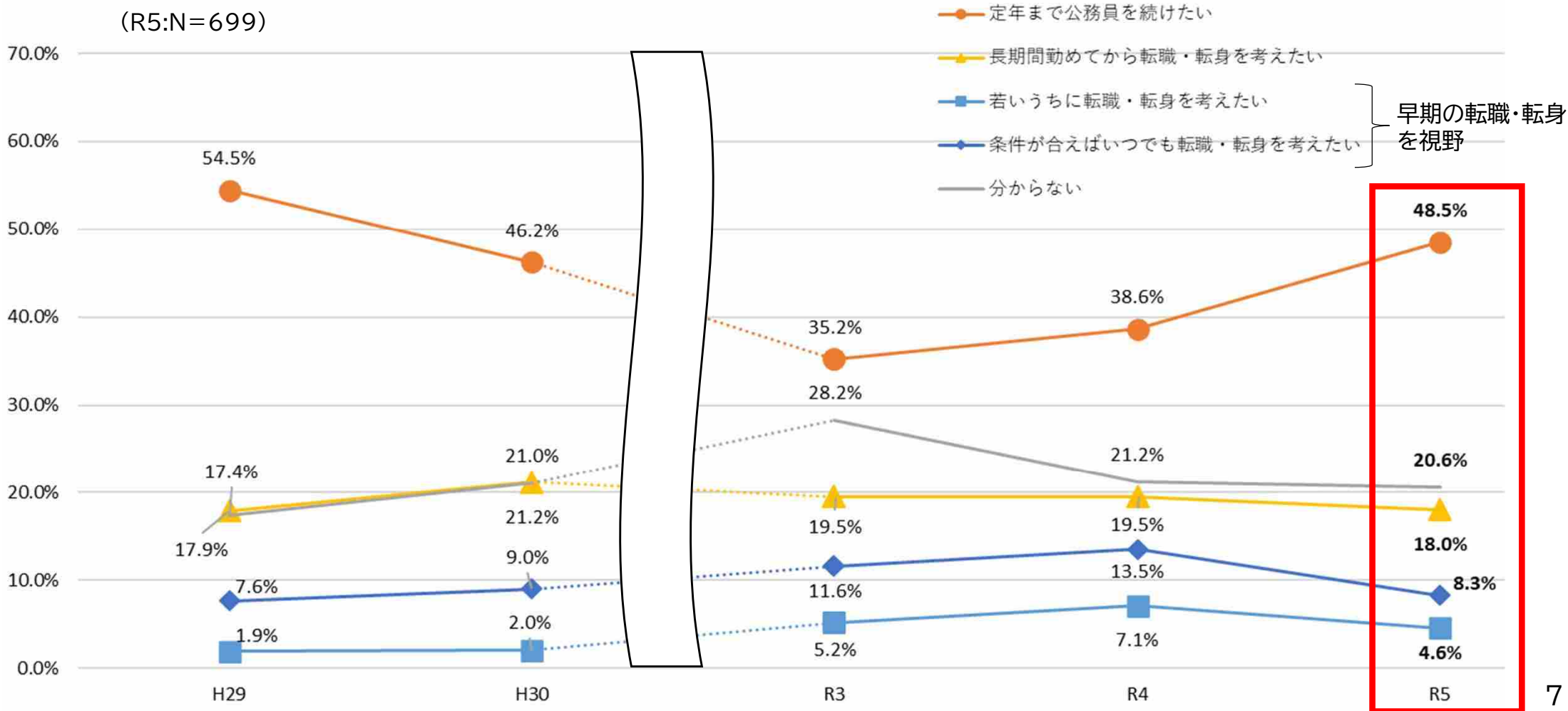


● コンサルタント・シンクタンク ▲ 商社 ■ 国家公務員 ◆ 外資系企業
○ 金融 △ 進学 □ 法曹

● コンサルタント・シンクタンク ◆ メーカー △ 進学 ■ 国家公務員
◆ 外資系企業 ▲ 商社 ✕ インフラ関係(電力・ガス等)

問6 国家公務員としていつまで働きたいか

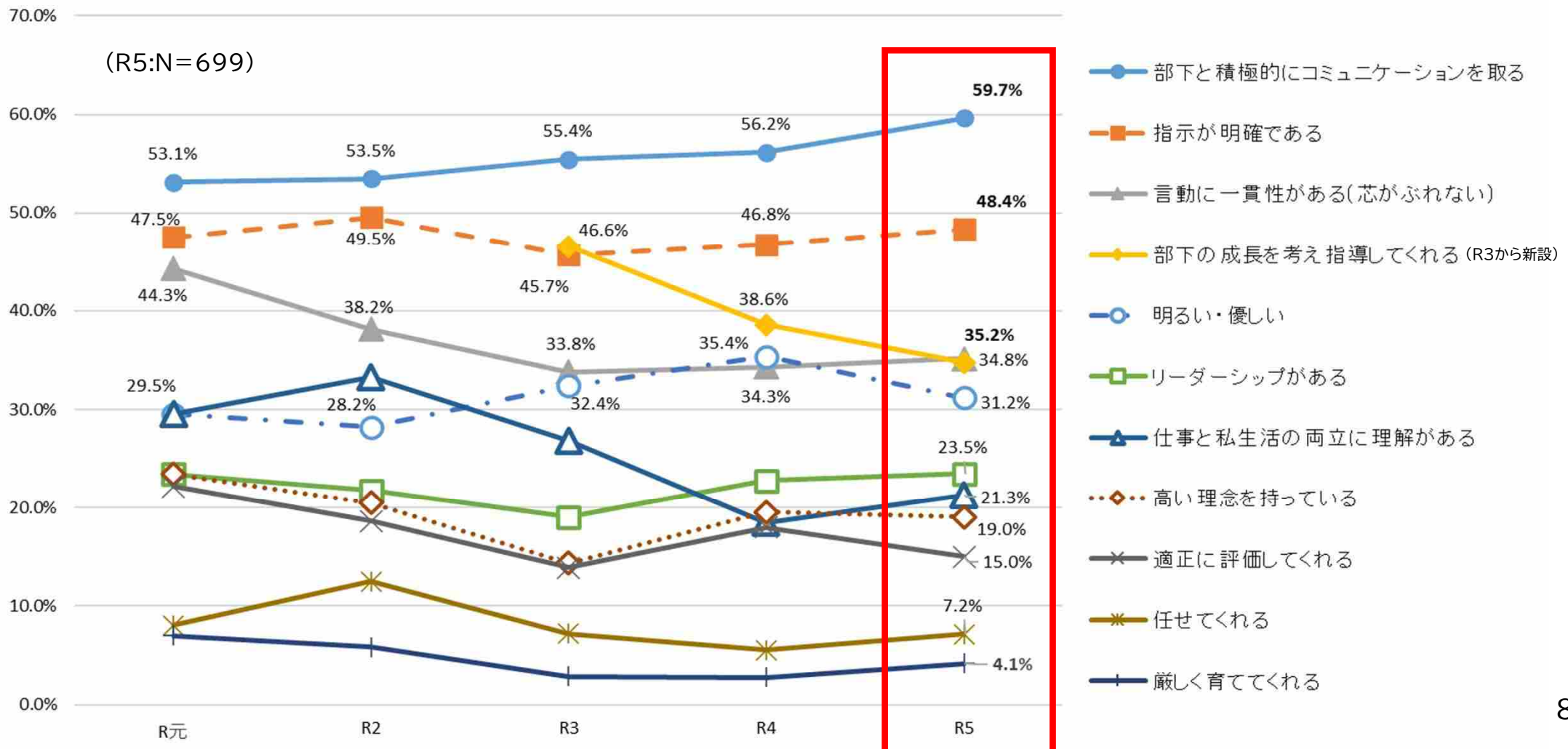
- ▶ 定年まで公務員を続けたい者は約5割
- ▶ 早期の転職・転身を視野に入れている者は1割強



※ R元、R2は当該項目について調査していない

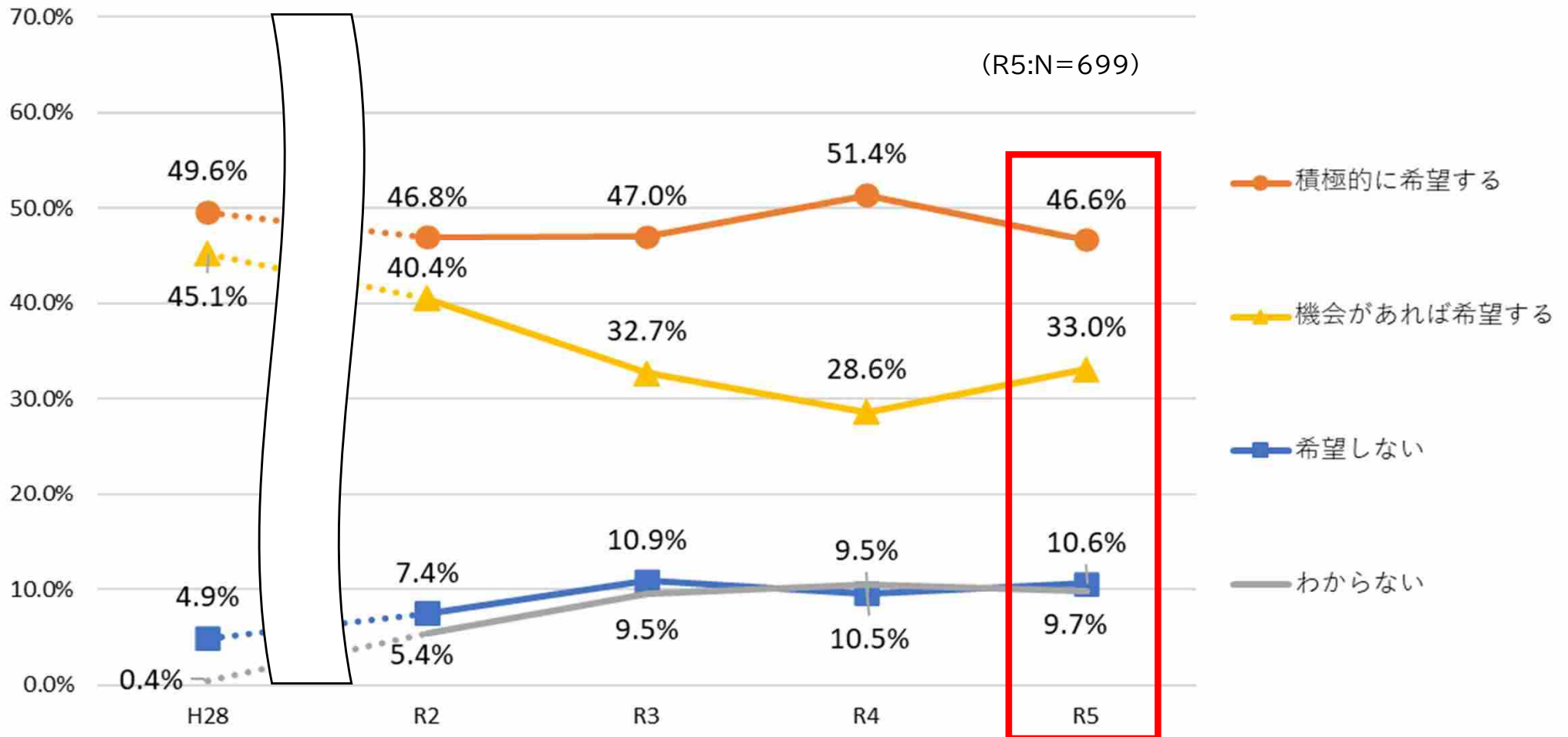
問7 どのようなタイプの上司の下で仕事がしたいか(3つ選択)

- 「部下と積極的にコミュニケーションを取る」「指示が明確である」の回答割合が高い
- 「厳しく育ててくれる」と回答した者は例年同様低い割合



問8 国際的な経験(留学・海外勤務など)について

➤「積極的に希望する」は46.6%、「機会があれば希望する」は33.0%であり、約8割の者が留学・海外勤務などを希望



※ H29～R元は当該項目について調査していない

問9 公務の魅力向上、優秀な人材の獲得のための取組(複数回答)

- 「給与水準の引上げ」(今回調査から新設)が81.1%で最多
- 働き方改革の推進(超過勤務・深夜勤務の縮減及びフレックスタイム制やテレワークの活用推進等)にも引き続き高い関心

